

伊那市 官民共創の新しいまちづくり協議会

会議名	第 13 回 まちなかエリア高度化 WG			
開催日	2025 年 7 月 29 日(火)			
開催時間	開会	18：10	閉会	19：45
開催場所	市役所 3 階 302 会議室 オンライン併用			
出席者				
協議会・WG メンバー	会場：黒河内貴氏、志知貴文氏 O L：鈴木孝之氏、政金裕太氏、細谷啓太氏			
事務局・職員	会場：企画部企画政策課 織井邦明課長、有賀慎課長補佐、 村田和也新産業技術推進係長			
関係者	—			
欠席者	土田智氏、瀧内貫氏			
議事	1、市からの事業提案について 2、次回「対話・つながり・実現の場」テーマ設定について			

議事項目	概要	次のステップ
1、市からの事業提案について		
あいさつ	○WG メンバー ・今までの「対話・つながり・実現の場」で市民の皆さんから出された意見から WG で取り組むテーマを絞っていく段階であるが、今回市からも「こんなテーマに取り組んではどうか」という提案があったので説明をお願いします。	
市からの事業提案について	○事務局 ・国の第 2 世代交付金の対象事業に、ハード事業にプラスしてソフト事業 2 件を要件とする事業がある。そういった機会を活かすということも念頭に置いた事業の提案である。 <スマートモビリティ> ・今までの「対話・つながり・実現の場」では、「交通」という大きなテーマ、具体的に移動手段として「シェアサイクル」も話題にのぼった。 ・実際に伊那市駅から伊那北駅まで歩いてみると大変だという感想も多く、「まちなかの移動」をいかに便利で快適にするかということも一つの課題として認識できた。 ・「まちなかの移動」という課題の解決手段としての「電動サイクルと乗り捨てのできる充電ステーションの統合的な整備」の提案である。	

	<自動運転> ・将来的な「ドライバー不足」という課題も見越して、伊那北駅を起点とした文教エリアへの移動手段として高校生や地域住民が利用する「自動運転バス」の提案である。 ・自動運転は、全国的には 16 地区ほど取り組んでいる自治体がある。 ・自動運転バスのルート上の何箇所かに人流計測、デジタルサイネージ、防犯機能も備えたスマートポールを設置していきたい。 ○WG メンバー ・1 月のキックオフから前回の「対話・つながり・実現の場」にかけて市民の皆さんからたくさんの意見が出ている。そのうちの「まちなかの移動」の解決手段としての市からの事業提案である。交付金の申請スケジュールに合わせると動きやすいという面はあると思う。 ○事務局 ・市から提案した事業は、この協議会の合意を得たうえで進めていきたい。交付金申請のタイミングもあり提案させていただいた。WG メンバーの意見を伺いたい。 ○WG メンバー ・「スマートモビリティ」や「自動運転」という取組は目立つものなので、それだけを前面に出すと結局それがやりたかったのかと見られてしまう。 ・たとえばシェアサイクルステーションを作ることによって新しい人の流れができるとする。交通手段としてのモビリティではなく、人の流れや滞留を作るためのモビリティという位置づけであれば取り組んでよいのではないかと。そこから「セントラルパークの活用」や「居場所づくり」といったことにもつながっていくと思う。 ○WG メンバー ・多くの市民の皆さんから見ると、キックオフ以降この協議会がどうなっているかわからないと思う。 ・交付金を申請する事業であると、採択されるタイミングがあり、事業に終期がある。 ・事業が進みだしたときに初めて市民の皆さんに関心を持ってもらえるという意味では、進められる具体的なテーマから取り組んでいかないと自分たちも含めて市民の皆さんの関心が薄れてしまうのではないかとという危惧もある。	
--	---	--

	○事務局 ・交付金申請の過程で市民の皆さんの意見を取り入れながら計画を作成していければよいと考えている。 ・官民共創の新しいまちづくり協議会での議論の結果必要であると位置づけされた事業であれば推進しやすいのは間違いない。 ○WG メンバー ・交付金等の申請では、実際に現場で必要としていることと申請が通りやすいことにギャップがある。 ・交付金等を活用する前提であれば、最初から例えば「スマートモビリティ」とテーマを絞った方が、こういったものがまちづくりに有益なのかアイデアが出やすい気がする。 ・交付金の枠から外れた意見が出てきてももちろんよいが、交付金を使って事業を推進できそうだという情報が事前にあるとより具体的な意見が出やすくなると思う。 ○WG メンバー ・今まで市民の皆さんから出されたさまざまな意見を分析しきれないまま、手段ありきで事業を進めるのは危ないと思う。慎重に議論を進めなければいけない。 ・交付金のお話を前面に出さずに、設定したテーマに対する解決手段として、こんなことがあります、それには交付金が使えますという情報提供はしてもよいと思う。 ○WG メンバー ・交付金があるからそれに関連する何かをやらなければならないという発想はよくないかもしれないが、このWGは、テーマがない状態が長く続いており、関心自体が薄れることも心配である。 ○WG メンバー ・具体的なアクションを起こさなければいけないということとは同意見である。 ○WG メンバー ・ツールに目が行くといけませんが、まちなかに人が集まる場所を作り、人流を作るためには移動手段が必要で、移動手段としてはこんなものがありますという流れであればよいのではないかと。 ・本当に「スマートモビリティ」を市民の皆さんが求めているかわからない状態で、ポンっとやりますという形になると今までと同じである。「移動手段」くらいのテーマ設定で、いくつかの選択肢の中でこ	
--	---	--

	んなツールがあります、交付金もありますとプレゼンテーションを行うような場の設定がよいのではないか。 ○WG メンバー ・伊那市は今までも飛び道具的な取組をしてきたのに、今回の「スマートモビリティ」や「自動運転」の話だけを敢えて WG の議論に乗せる必要はないのではないかというのが個人的な意見である。 ・「まちづくりに関わる市民を増やすこと自体がまちづくりの形」というのが我々としての一つの結論であるので、例えば「拠点づくり」、「見える化のプラットフォーム」、「公園」、「高校生の居場所」といった、今までの市民の皆さんとの「対話・つながり・実現の場」でのぼったテーマからブレずにやっていくべきである。 ○事務局 ・「スマートモビリティ」や「自動運転」は、まちなかエリアの課題解決手段となりえる事業であり、市としては事業を進めたいという考えがあるものの、それには官民共創の新しいまちづくり協議会の合意の下で進めたいと考えている。 ○WG メンバー ・そもそも、市としてやりたいと思う事業と市民の皆さんのニーズがマッチしているかが見えなくなっているからこそ官民共創の新しいまちづくり協議会が立ち上がったわけで、その擦り合わせをこの WG に期待されるのはわからないではない。 ○WG メンバー ・具体的な内容が交付金採択後でよいのであれば、交付金の申請は市の方で進め、採択後に市民の皆さんと一緒に、具体的に誰をターゲットとして、どういった移動手段が望ましいのかを考えましょうという展開でよいのではないか。 ○事務局 ・まずは交付金を申請していく段階は市で進めさせていただき、具体的な取組を進める段階で官民共創の新しいまちづくり協議会の中で議論いただきながら進めていくこととしたい。 ・いずれにしても、「スマートモビリティ」や「自動運転」という事業が、今までの協議会の取組の文脈の中にきちんと落とし込まれるようにして関連付けていきたい。	・提案事業の交付金申請は市で進め、採択後協議会の中で議論いただきながら具体的な取組を進めることとする。
--	---	---

2、次回「対話・つながり・実現の場」テーマ設定について		
次回「対話・つながり・実現の場」テーマ設定	○WG メンバー ・ 前回までの「対話・つながり・実現の場」でかなり有益な情報が得られている。その中でどのテーマを具体的に実行に移していくか選ぶ際に、どういう観点で選ぶのかという意思決定のプロセスが見える化されるとよいと思う。 ○WG メンバー ・ どのテーマを取り上げるかも意思決定であるし、選んだテーマをどう進めるかも意思決定である。どの段階の意思決定の見える化をするかもポイントであると思う。 ○WG メンバー ・ キックオフから前回の「対話・つながり・実現の場」にかけて出た意見をもう一度分析し、意見数の多さなどから、どのテーマが重要か優先順位を付けたうえで、次回のテーマ設定をするのはどうだろうか。 ・ 対話のテーマは、例えば「子育て」に絞ってしまうと子育て世代以外の方があまり参加できなくなるので、「子育て」と「コレ」と「コレ」についてなど3個～5個のテーマを選び参加者の偏りをなくせばよいのではないか。 ○事務局 ・ 1つのテーマで「対話・つながり・実現の場」を開催するのは難しいので、複数のテーマで複数回開催してもよいと思う。 ・ 内容的には、今までの課題や魅力を出し合う発散の段階から前進し、「こんなことをやってみたい」という意見が出てくる場としたい。 ○WG メンバー ・ 具体的なアクションのアイデアにつながる対話になればと考えている。 ・ このWG メンバーにはそれぞれ得意分野があるので、それぞれの得意分野でアドバイザー的な役割で対話に入れば、具体的なアクションにつながるファシリテーションができるのではないかと。例えば私であれば「公園」や「空き地の活用」といったテーマの対話に入り、「Parking Day」といった具体的なアクションがありますよという話もできる。 ○WG メンバー	

	・ 次回の「対話・つながり・実現の場」のテーマは、具体的なアクションにつながるテーマにしましょうと決めれば、だいたひテーマを設定しやすくなる。 ○WG メンバー ・ テーマの決め方として一番簡単なのは、多数決である。多数決がよいのかという議論の余地はあるが、上位3つをテーマとして設定してみるというのもありではないか。 ○事務局 ・ テーマの決め方に迷うのであれば、例えば WG メンバーの得意分野である「公園」や「空き地の活用」、企画政策課の所管である「交通」など WG メンバー側で「対話」の場をファシリテートしやすいテーマを設定するというのもありではないか。 ○WG メンバー ・ 今まで連綿と続いてきた協議会の流れに立ち返らないといけない。キックオフから前回の「対話・つながり・実現の場」までであがった意見からピックアップしてテーマ設定するのは絶対である。 ・ テーマ設定の際には、WG メンバーがファシリテートしやすいという視点があってもよい。 ・ 次回「対話・つながり・実現の場」では、設定したテーマで具体的なアクションを話し合いたい。 ○WG メンバー ・ 設定するテーマが例えば「交通」であれば、「交通」、「移動手段」、「スマートモビリティの利用」等、テーマの大きさの程度はどの階層で設定するか。 ○WG メンバー ・ 一番大きな階層のテーマでよいと思う。 ・ 次回の WG までに、キックオフから前回の「対話・つながり・実現の場」にかけて市民の皆さんから出た意見をあらためて見直し、WG メンバーの思いも併せて、3つ程度のテーマを考えてみる。なぜそのテーマとしたかのプロセスも説明するので、WG メンバーで議論していただきたい。 ○WG メンバー ・ 私がまちづくりのワークショップを行うときに持ち出す指標がウェルビーイング(地域幸福度)指標である。 ・ 市民に対し例えば交通や買物といった指標について幸福度を聞いてレーダーチャートを作成する。その	次回 WG で、WG メンバーのテーマ案を基にテーマ設定を行う。
--	---	---

	チャートで凹んでいる項目について議論するという進め方をしている。 ・ウェルビーイング調査も間違いなく市民の皆さんの声であるので、今までの「対話・つながり・実現の場」の中で出てきた意見に盛り込んでいくと裏付けになる。この WG を進めていく揺るぎない指標として、市でウェルビーイング調査をしていただけるとありがたい。	
--	---	--

■今後のスケジュール

<次回 WG>

- ・ 8 月 18 日(月) 午後 6 時～ 市役所 5 階 501 会議室（オンライン併用）